

第38回

うつのみやこども賞だより

令和3年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『莉緒と古い鏡の魔法』

香坂 理／作 (朝日学生新聞社)



令和3年10月3日

～読んだ本の感想より～

- 魔法のチャームのおかげで、自分や誰かの感情のいいところも悪いところも、見ることが出来るので、私もその魔法のチャームがほしいなと思った。
- それぞれちがうチャームに、いろいろなこせいがありおもしろかった。
- 女子のしつとや友達関係のことがとても共感できるお話だった。
- 最初莉緒は、仲良しの友達もいなかったが古い鏡の魔法を知ったことで最後には友達もできて、こんなことができたらいいなと思った。
- 莉緒と私の「お母さん問題」はすごく分かる。勝手に決めつけられたりするの、すごくいやな思いになるから。最後に莉緒がお母さんにすばっと言っていた所はそんけいした。

『さいごのゆうれい』

斉藤 倫／著 (福音館書店)

- 主人公がカンナの花を燃やしたことで、「大幸福時代」は終わってしまったけれど、それによって「幸せ」の重みが増すと思いました。
- ゆうれいをつかまえようとする人がいてかなしかったけれど、大きなぼうけんにつながっていておもしろかった。
- ぼくとネムがわかる最後のばめんが、すごく心にのこりおもしろかったです。
- ネムがひとさわぎおこそうとしたとき、ゆうれいのそんざいをおもいださせようとしているとしてかんどうしました。
- 始めのネムとハジメのゆうれい塾の夏期講習の内容が面白かったので私も受けてみたいと思いました。

『Surf Boys』

南田 幹太／著 (PHP研究所)

- 特別な波で一位を目指す、私と同じくらいの2人が、とてもカッコ良く思えました。私はサーフィンの経験はないし、海のことはよくわからないので、やってみたいなと思いました。
- スティーブたちに、サーフボードをこわされた場面では、ひどい…と思った。だけど、最後に、優勝できてよかった。
- 誠がやっているサーフィンのわざはそうぞうしやすく、本の表紙に書いてある「伝説になった12歳の夏」という意味もわかりやすかった。
- 誠と亮はサーフボードに火をつけられても、正々堂々とたたかおうとしていて、すごいと思った。

『カイトとルソンの海』

土屋 千鶴／作 (小学館)

- 動物の思っていることがわかるルソンはすごいと思った。
- カイトがルソンと別れるときに、ルソンがほばしらから片手をふっているのがカッコよかった。
- 最後にカイトとルソンが別れてしまうシーンでは、とても感動して、涙がでてきました。
- 今までの生活がまったくちがう2人だったけど、友人がこわれかけの船を出してしまった時は力を合わせて舵を切ってみんなを助けたのですごいなと思いました。